

埼玉県の公立高校入試について

I 入試問題の難易度の推移

過去10年以上にわたり本県の公立高校入試問題の難易度は、他都府県のそれと比較して著しく高くなっています。以下、東京都の最近3年間と比べてみます。

埼玉県公立高校入試の平均点の推移

年度	国	数	英	理	社	合計
2018	52.8	44.0	55.9	51.7	55.9	260.3
学校選択		44.0	44.1			
2017	53.3	44.4	52.0	48.5	60.6	258.8
学校選択		43.2	71.9			
2016	57.9	51.1	57.4	39.2	63.7	269.3
2015	56.0	48.1	49.1	55.6	50.3	259.1
2014	64.0	45.0	45.0	46.1	49.5	249.6
2013	65.6	42.4	53.7	63.4	50.3	275.4
2012	59.7	36.5	44.1	48.7	49.0	238.0

東京都公立高校入試の平均点の推移

年度	国	数	英	理	社	合計
2018	65.9	66.5	68.0	61.5	61.5	323.4
2017	69.5	56.3	57.8	58.6	55.9	298.1
2016	73.9	60.9	57.4	59.3	50.6	302.1

東京都公立高校入試問題との難易度の違いは一目瞭然で、2012年度の数学にいたっては36.5点という低さです。

II 入試問題の特徴

入試問題の難易度の高さは受験生の学力の高さを示すわけではありませんが、本県入試には合格者選抜方法の考え方がはっきりと出ています。教科にかかわらず、受験生に「考えさせる問題」が多く出題され、そのことはそのまま設問の難しさにもつながっています。本県入試では自分で考える力が求められます。

一般的に私立難関高校の入試問題の難しさが言われます。

この場では入試問題の研究・調査の結果を細かく述べることはできませんが、本県入試問題と私立高校入試問題の難しさとはまったく異なるものです。私立高校入試の難しさは、教科書レベルあるいは履修範囲を越えて出題されるところにあります。埼玉

県の入試問題の難しさは履修範囲内からの出題であるところにあります。そのことが「考えさせる問題」が多く出題されることとつながっています。

III 入試の今後

左に掲げた表のように、本県入試では数学、英語の2科目で「学校選択問題」があります。昨年度は21校が実施しました。2年間の新制度導入期の混乱はありましたが、全体としてみると埼玉県の入試問題の難易度は高いままです。

パンセは、今後とも「入試では自分で考える力が求められる」傾向が後退することはないだろうと考えます。

IV 入試対策

国数英の三教科の大切さは当然として、パンセは機会あるごとに「すべての学習の土台である国語」の重視を主張してきましたが、ここでは繰り返しを省き、受験における国語力の大切さを強調したいと思います。

教科書準拠教材やワークではしっかりした国語力＝日本語力を養成していくことは困難です。普段からの「選りすぐった読書」と授業を通じた「対話」、そして優れた教材を用いるほかに国語力を伸ばす有効な手だては無いと断言します。

国語の授業での定期テスト対策はもちろん最も大切ですが、通常授業においては以下の教材を最大限活用して国語力の充実に努めます。

- ① 漢字力→パンセプリント「漢字テスト」全25回分
- ② 文法力→パンセテキスト「文法力の完成」
- ③ 読解力→パンセテキスト「現代国語」

国語偏重ではなく、国語力強化が全般的な学力強化につながるという考え方を念頭に置いてすべての授業をいっそう充実させていくことが、埼玉県の入試問題を解く学力を最短で身につける道であり、パンセの使命であると考えます。

数学、英語に偏り勝ちな勉強時間・方法を振り返り、国語にかける勉強時間を軽視することは避けなければなりません。

数学、英語の入試対策については次回の機会に述べさせていただきます。